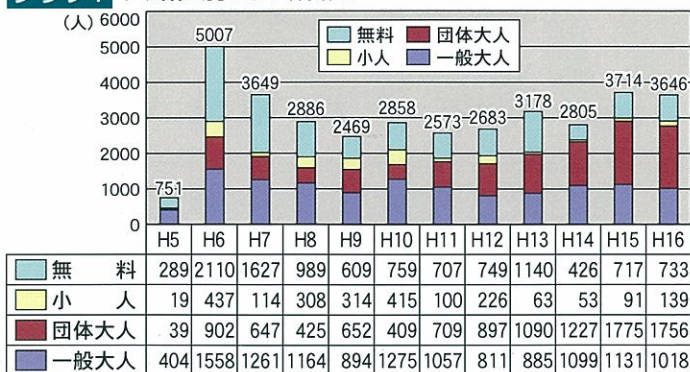
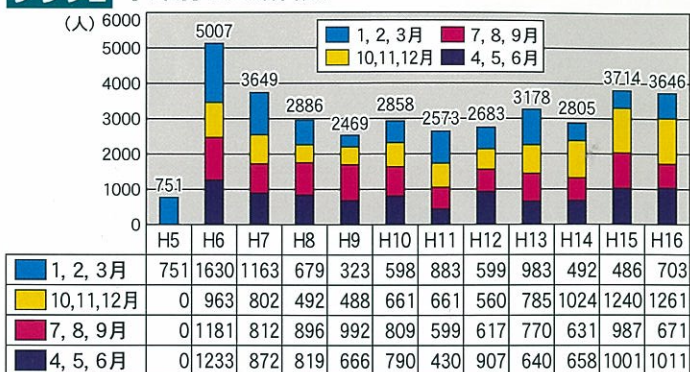


飯島陣屋の入館状況

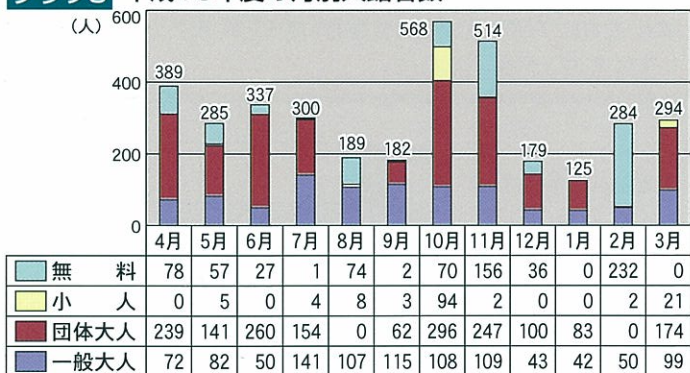
グラフ1 入館種別の入館者数



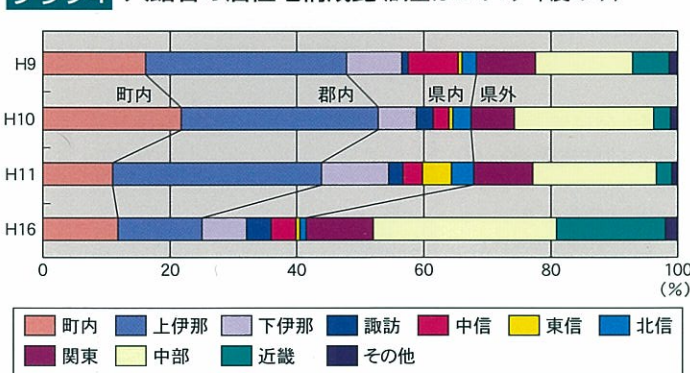
グラフ2 季節別の入館者数



グラフ3 平成16年度の月別入館者数



グラフ4 入館者の居住地構成比(調査はこの4ヶ年度のみ)



《入館状況分析》

グラフ1 「小人」(有料の小中学生・高校生)は入館者数が少ないため「団体小人」「一般小人」に分けていない。平成5年度は、平成6年1月25日オープンのため開館日数55日での数字。オープン次年度は5000人を超えたが平成8~14年度は2500~3000人強ほどで横ばい傾向。平成15、16年度はやや盛り返した。行政視察や町内の学校の利用がほとんどの「無料」を除くと、平成7~13年度は約2000人、平成15、16年度は約3000人が入館。平成10年度以降「団体大人」が増加しているのは、近隣のホテル利用者の来館や、旅行会社(主に近畿地方)の利用が増えたため。「一般大人」が伸び悩んでいることと「小人」の少なさが課題。

グラフ2 各年度、冬季(1,2,3月)にあるていど入館者があるのは、イベント(お陣屋行燈市)にともなう2日間の無料開館が要因。近年、秋季

(10,11,12月)の入館者が増加しているものの、夏季(7,8,9月)が少ない。

グラフ3 8,9月の入館者の少なさは、団体が少ないことが原因(一般大人は多い)。春・秋の旅行シーズンに団体入館が多い。有料の小人は、10月には町外の学校、3月にはボーイスカウトの利用があったものの、家族連れや子供同士での来館は各月0~数名。

グラフ4 平成9~11年度と16年度、入館者がどこから来てくださったかを調査した。はじめ郡内がほぼ50%、県内が70%近かったが、平成16年度は郡内が25%、県内が40%ほどとなり、中部・近畿の比率が高くなった。人数で見ても県内からの入館者が漸減した一方、平成16年度の中部・近畿からの入館者は平成9年度との比較で中部2.8倍、近畿4.2倍に増加した。

### 冬季休館のお知らせ

「飯島町ふるさとづくり計画」(自立のための町づくり計画)にもとづき、管理・運営見直しのため、平成17年度、飯島陣屋は12月15日から3月14日まで、冬季休館を試行することとなりました(下のカレンダー参照)。ただし、お陣屋行燈市などのイベント時、および、ご予約をいただいた場合はその時間のみ開館いたしますので、3日前までに電話でご予約ください(0265-86-4212)。ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどお願いいたします。なお、冬季以外の休館日も、3日前までのご予約により開館いたしますので、お気軽にお電話ください。

平成17年度飯島陣屋カレンダー

4月							5月							6月							7月							8月							9月																																																																																																																																																																																																																																																																					
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土																																																																																																																																																																																																																																																															
					1	2							1	2	3	4	5	6	7								1	2	3	4								1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31								1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31								1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31								1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31								1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31								1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31								1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

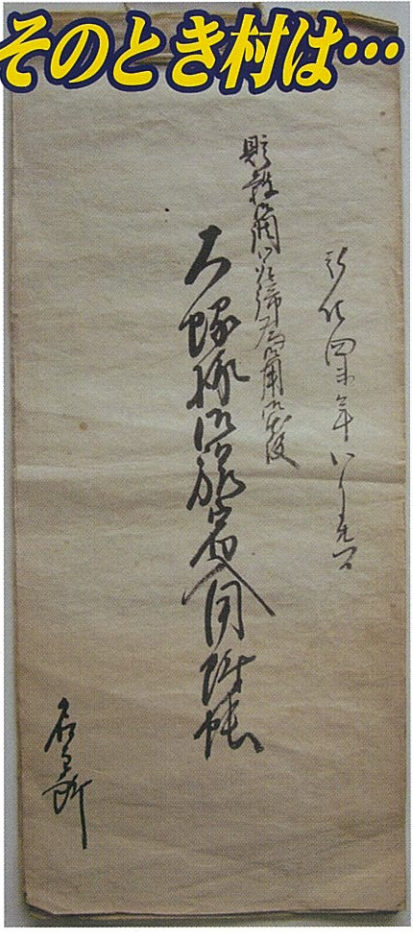
# 飯島陣屋だより

No.12  
2005.3

発行/飯島町歴史民俗資料館 〒399-3702 長野県上伊那郡飯島町飯島2309-1 TEL 0265-86-4212

## 突然お役人がやってきた! そのとき村は...

弘化4年(1847)8月21日(新暦では9月30日)昼過ぎ、抜き打ちで本郷村(飯島町)にやってきた飯島陣屋手代の大塚弥一郎たち一行6人。飢饉に備えて備蓄している穀物を検査した後、村内6人の名前を挙げ「風聞のよろしくない者であるから呼び出せ。お調べをする。」と仰せられた。村役人は「今回はどうかお許しを」と懇願するも、聞き入れてくれない。その晩は、小和田(中川村)の天竜川に掛けられていた築(やな)で捕れた鮎づくしの料理でもてなした。翌朝、名指しされた6人の者および村役人から歎願書を出し、さらに陣屋手代の手先の者をまるめこんだ末、ようやくご勘弁になった。陣屋手代たちは小平(中川村)へ向けて出立、名主は村境まで見送ったが、その道々、村境まで、村内取り締まりについてくどくど申し聞かされた。しかし、陣屋役人たちは、しごくご機嫌よろしく去っていった。



### 酒と肴

**夕食メニュー**

- ◆鮎の塩焼き
- ◆鮎の瀬越し酢漬け
- ◆きのこのあんかけ
- ◆里いも熱のし
- ◆鮎の塩辛(うるか)
- ◆鯉こく
- ◆ぶどうと地黄菜のすまし汁
- ◆飯
- ◆山芋・玉子・松茸・人参

**朝食メニュー**

- ◆焼き玉子・ぶどう・百合根
- ◆したし
- ◆塩焼き(魚種は不明)
- ◆赤魚熱ひたし汁(大根・里いも入り)
- ◆鮎のすり身、椎茸、青菜
- ◆飯
- ◆鮎の焼き物

**用意した主な食材**

酒(6升5合) 鮎(18本程度) 鯉(約500g) ぶどう(約2kg)  
 松茸(約2kg) 椎茸(数量不明) 玉子(15個) 大根(4本) 里芋(2升)  
 山芋(約1kg) 百合根(5個) わさび(3個) しょうが(1個)  
 吉野葛(5勺) 油(2合5勺) 酢(3合) みりん(5合) 白米(2升)

### 礼金

**陣屋役人**

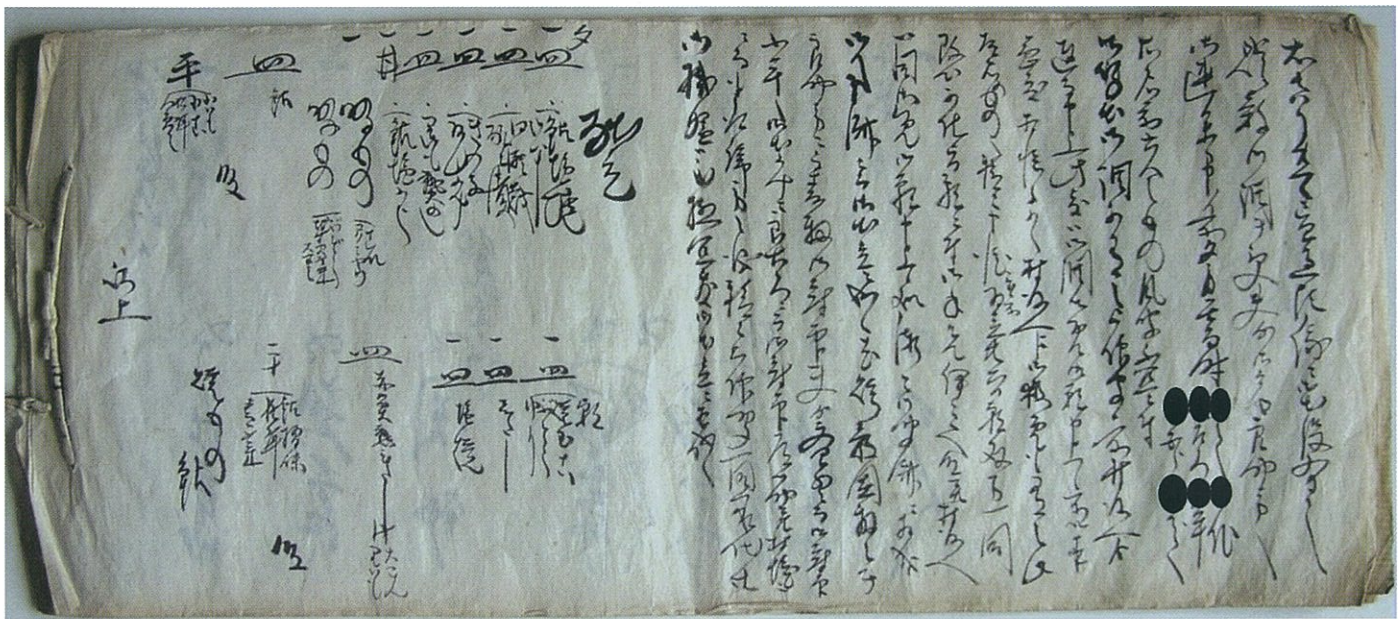
大塚様へ...金2分  
(6万円程度※)  
 元締め様へ...金1分  
(3万円程度※)  
 書役へ...金2朱  
(1万5千円程度※)

**陣屋役人の手下**

御手先・侍・小者の3人へ  
 ...金1分と銭300文  
(3万6千円程度※)

一行6人の1泊2日で、30万円程度(※)がかかっている。  
 ※金1両を12万円と仮定した場合

写真右:「貯穀御調・御取締為御用御出役 大塚様御旅宿入用附帳」(河野通昭氏所蔵)表紙 写真下:同、検分の経過と献立を記した部分





# 飯島陣屋の歩みをふりかえる

飯島陣屋が江戸時代の姿で再現されたのは、平成5年の酉年。今年、平成17年は、一回り目の酉年です。人によっては、小学生から中学生へ。そこで、この節目に、歩んできた道のりを振り返ってみます。

## 復元が始まるまで

**慶応4年** (1868) 3月、飯島陣屋は廃止され、尾張藩飯島取締役所となる。8月、伊那県庁となる。  
**明治4年** (1871) 11月、伊那県廃止。その後建物は飯島学校となる。  
**明治27年** (1894)、飯島学校が移転、建物は取り壊される。  
**大正4年** (1915)、地元有志が飯島陣屋・伊那県庁の史跡を永く後世に伝えようと、跡地に記念碑を建立する。  
**昭和37年** 7月12日、「伊那県庁(飯島陣屋)跡」として長野県の史跡に指定される。

**昭和57年** 7月、第1回「お陣屋まつり」開催。陣屋時代の町の賑わいを表す提灯みこしを中心に、踊り・獅子舞・花火・子供みこしの夏祭り。昭和59年、「お陣屋音頭」誕生。昭和60年(第4回)には代官行列も加わり、祭りのスタアタイムが確立した。  
**昭和50年代後半以降** 飯島陣屋復元を望む声が高まる。飯島町郷土研究会が積極的に運動。

## 4年をかけて陣屋を復元

この間、たくさんの方の資料を寄贈いただきました。

**平成2年** 復元事業スタート。9～12月に発掘調査。  
**平成3年** 実施設計。  
**平成4年** 復元工事開始。  
**平成5年** ★7月、住民グループ「代官行列を楽しむ会」発足。以後毎年夏の「お陣屋まつり」、冬の「お陣屋行燈市」などで古文書に基づいた代官行列を再現。  
★11月、ボランティアグループ「飯島陣屋友の会」発足。展示品手入れ、館内外清掃、イベント補助などを今日まで継続。  
★12月20日、復元工事完了、竣工式開催。代官行列を楽しむ会による「代官着陣の儀」で開門。祝賀会では史料に基づく「代官御膳」が再現される。



## 裏話～史跡内での復元

飯島陣屋の復元は、長野県指定の史跡内で行われました。通常、文化財である「史跡」を破壊する行為は認められません。復元であっても、地下の遺構を破壊する行為とみなされます。近年でこそ史跡の有効活用が唱えられていますが、飯島陣屋の復元はその先駆的な例でしたので、すぐにOKが出たわけではありませんでした。発掘調査を実施した上で、遺構を破壊しないよう盛土を施し、さらに古文書調査によって当時の姿をできる限り忠実に再現する。その具体的な方策を示して、ようやく実現した復元事業でした。

## 開館以後の主な行事・出来事

< 定番行事の模索 > → < 講座やクラブ活動の充実 > → < 施設をいろんな形で利用 > と進化しています。

**平成6年**  
★1月22～23日、「お陣屋行燈市」初開催。あわせて飯島陣屋プレオープンとして無料開放。2日間で1700人入館。以後、ほぼ毎年お陣屋行燈市に合わせて無料開放を実施。  
★1月25日、飯島陣屋開館。  
★3月、生け花ボランティア開始。町内の生け花師範の皆さんが、週替わりで館内2ヶ所に生花を飾る。今日まで継続。  
★12月、伊那県時代の古文書に基づき、特大鏡餅、門松などの正月飾りを展示。以後毎年実施。

**平成7年**  
★1月、満玉・ぼんだり様などの小正月飾りづくり。以後毎年一般参加者を募集するなどして実施。  
★8月、夜の陣屋でろうそくをともして「こわいこわいおはなしの会」(飯島町図書館主催)。以後平成10年まで毎年実施。  
★11月、文化財愛護全国研究会(文化庁主催)で、飯島陣屋友の会が事例発表。  
★12月、参加者を募集し、子供しめ縄作り体験実施。以後、平成12年まで継続。

**平成8年**  
★2月、保育園児を招き、飯島陣屋で節分の豆まき。以後平成14年まで実施。  
★2月、夜の陣屋で人形芝居「百鬼どろろ」公演。  
★4月、「代官行列を楽しむ会」が静岡市の「静岡まつり」で代官行列。江戸後期に駿府陣屋(静岡市)の代官が飯島代官を兼任していた史実から、駿府での代官行列を実現。  
★飯島町中央公民館と共催で「ふるさと」の歴史講座」7回開催。  
★9月、講演会「代官・陣屋・

**平成9年**  
★10～12月、「代官行列パネール展」開催。陣屋館では「飯島町の歴史と文化展」を同時開催。  
★11月、飯島陣屋で子供たちが「昔の生活体験」(雨戸の開け閉め、昔の明かり体験、調理と食事など)。  
**平成10年**  
★飯島町中央公民館と共催で「ふるさと」の歴史講座」10回開催。  
★子供向け歴史体験クラブ「タイムトラベラーズクラブ」を10回開催。

**平成11年**  
★1月、グリーンチャンネル(テレビ)「アグリネット」の正月特別番組を陣屋のいろりから全国放送。  
★1月、小学生による「カルタと餅焼き会」。  
★11～2月、「わらじクラブ作品展」開催。希望者に週1回「わらじ体験」も実施。以後冬の企画展として平成13年度まで継続。  
**平成12年**  
★親子向け「いろりでおぼろちゃん」の昔話を聞こう!」4回開催。  
**平成13年**  
★1月、大雪のため陣屋の屋根が損壊。2月、白州に「雪男」の雪像をつくる。大雪を降らせた罰として天日干しの刑を申し渡す。  
★2月、SBCテレビ「ほつとスタジオ」の「見なきや

天領」を開催。講師は村上直氏、西沢淳男氏。

**平成14年**  
★2月、「発掘調査に見る飯島町本郷の中世展」を飯島町文化館で開催。藤沢良祐氏、伊藤修氏による講演会開催。  
★10月、NHKテレビ「ニュースアスナップ信州」の企画「秋の伊那路を行く」コーナー、飯島陣屋から生中継。

**平成15年**  
★2月、いろりでの「ざざ虫」「ごとう虫」などの郷土食を体験(飯島町中央公民館主催)。  
★10月、開館10周年記念事業。代官行列を楽しむ会と共催で「展覧会」を開催。講師は高木俊輔氏、講師は守永ますみ氏。

**平成16年**  
★2月、お陣屋行燈市にあわせ、代官行列を楽しむ会が「展覧会」を開催。講師は高木俊輔氏、講師は守永ますみ氏。

**平成17年**  
★1月、お陣屋行燈市にあわせ、代官行列を楽しむ会が「展覧会」を開催。講師は高木俊輔氏、講師は守永ますみ氏。

**平成18年**  
★1月、お陣屋行燈市にあわせ、代官行列を楽しむ会が「展覧会」を開催。講師は高木俊輔氏、講師は守永ますみ氏。

**平成19年**  
★1月、お陣屋行燈市にあわせ、代官行列を楽しむ会が「展覧会」を開催。講師は高木俊輔氏、講師は守永ますみ氏。

**平成20年**  
★1月、お陣屋行燈市にあわせ、代官行列を楽しむ会が「展覧会」を開催。講師は高木俊輔氏、講師は守永ますみ氏。



## 「いろりばた」での会話

飯島陣屋の見学順路の最後は「いろり」です。帯戸を開けると、煙のむこうで「いろりのおぼろちゃん」が笑顔で迎えてくれます。いろりばたにどっかと腰をおろして迎える見守り、昔にタイムスリップしたかのようです。お茶を飲みながら世間話。遠方からお越しの方には飯島や伊那谷の話。おぼろちゃんが若いころ経験したいろりばたでの生活の話。火をながらすの気楽なお話です。でも、そんな昔の雰囲気の中での会話も、最近ではゴミ問題とか異常気象とか農業とか、現代の切実な話題に発展することが多くなりました。

チョーソン」コーナー、飯島陣屋から生中継。  
★10月、飯島小学校6年3組、代官行列の道筋をたどり、高遠町御堂垣外宿本陣まで45キロを歩く。江戸時代には飯島代官が1日に移動した行程を体験。  
★11月、祖父世代向け「いろりばたの思い出を語ろう」開催。

**平成14年**  
★2月、「発掘調査に見る飯島町本郷の中世展」を飯島町文化館で開催。藤沢良祐氏、伊藤修氏による講演会開催。  
★10月、NHKテレビ「ニュースアスナップ信州」の企画「秋の伊那路を行く」コーナー、飯島陣屋から生中継。

**平成15年**  
★2月、いろりでの「ざざ虫」「ごとう虫」などの郷土食を体験(飯島町中央公民館主催)。  
★10月、開館10周年記念事業。代官行列を楽しむ会と共催で「展覧会」を開催。講師は高木俊輔氏、講師は守永ますみ氏。

**平成16年**  
★2月、お陣屋行燈市にあわせ、代官行列を楽しむ会が「展覧会」を開催。講師は高木俊輔氏、講師は守永ますみ氏。

**平成17年**  
★1月、お陣屋行燈市にあわせ、代官行列を楽しむ会が「展覧会」を開催。講師は高木俊輔氏、講師は守永ますみ氏。

